

---

平成 25 年

# 6 月の普及活動状況

---

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業革新支援センターの取組～



岐阜県農政部農業経営課

## 平成25年6月の普及活動状況ダイジェスト版

### 活力ある新産地づくり

#### 中濃農林 ■ 円空さといも マルチ栽培試験の生育状況

さといものマルチ栽培は、盛夏期の除草、追肥、土寄せ作業の大幅な省力化が期待される。農業普及課では、生産組合と協力して、定植時期とマルチ被覆の効果について試験を行っている。

6月下旬の時点で、早植えの3月定植では、葉柄長（ダツの長さ）が、マルチなし（慣行）区では約25cmに対し、マルチ被覆区では50cm以上となるなど、マルチ被覆により大幅に生育が促進される事が分かった。一方、遅植えの5月定植では、地温が高くなりすぎ、生育に悪影響を及ぼすことが分かった。

今後、夏期の生育状況や、収量・品質等の調査を行い、結果を総括して、マルチの適正な利用方法を明らかにし、次年度の栽培に反映することとしている。



【マルチ栽培試験ほ場】  
(中央より右側がマルチ栽培)

#### 恵那農林 ■ クリ 新規栽培者の技術習得と仲間づくりを支援！～チャレンジ塾開講～

東美濃栗振興協議会、JAひがしみの主催による「クリ新規栽培チャレンジ塾」が、6月9日に中山間農業研究所中津川支所で塾生11名により開講した。

初回の講座には6名が出席した。室内では、産地の概要や年間管理作業の流れについてDVDや技術冊子等で学んだ。ほ場では、樹齢別の生育状況や初夏の栽培管理技術（追肥、除草等）について学んだ。

東美濃クリ産地では、平成18年度から生産者組織・JA・市・県現地機関が丸となって産地拡大プロジェクト活動に取り組んでおり、これまでに97名の新規栽培者が誕生し、40ha弱で苗木が植栽されている。

塾は、プロジェクト活動における担い手育成対策の一環で実施されており、本年度で7年目となる。新規栽培者等への実践的な技術習得や、先輩農家・新規栽培者間の交流による仲間づくりの支援を目的に、来年2月までに全7回開催される。農業普及課では、塾を通して、季節ごとの栽培管理作業（病虫害防除、収穫・選果、剪定、開園準備・苗木植栽等）について技術指導を行う予定である。



【塾生に開花状況を説明】

### 売れる農畜産物づくり

#### 西濃農林 ■ 大豆 全国豆類経営改善共励会で生産局長賞受賞

第41回（平成24年度）全国豆類経営改善共励会（集団の部）において、海津市の平原地域営農組合が「生産局長賞」を受賞し、6月19日に東京都で表彰式が行われた。

当組合は、大豆栽培のため、暗渠排水整備に加えて明渠や弾丸暗渠の設置を行い、排水対策を徹底するとともに、適期播種、中耕培土、適期防除など基本技術の励行により、高収量、高品質、低コスト化を実現しており、今後とも地域の大豆栽培の模範としての役割が期待されている。

農業普及課では、JAにしみのと協力し、当組合の計画的な水稲・小麦・大豆の2年3作ブロックローテーションの実施、品目毎の団地化による大型機械の効率的利用について、継続的な支援を行っている。



【表彰を受ける組合代表】

## 郡上農林 ■ だいこん 抽だい被害の防止にむけて

高鷲地域のだいこんは、6月16日から収穫が始まった。今年は播種が始まった4月下旬から5月上旬まで低温が続いたため、抽だいの被害が心配されたが、農業普及課からの保温対策(トンネル+べたがけ)の指導と、生産者の過去の抽だい被害の経験を踏まえた保温対策の徹底等により、抽だい被害がほとんど見られず、良い出荷スタートを切ることができた。

農業普及課では、生産組合と協力して新品種の試験も実施しており、抽だいの程度など収穫期の調査を始めている。今後、新品種の特徴や現場での適応性を把握し、高鷲地域における有望品種の選定を進めていく。



【抽だいの程度等新品種を調査】

## 農業経営課 ■ 夏秋ナス 夏秋ナス独立袋栽培第1回推進会議を開催

夏秋ナス独立袋栽培は、平成22～24年の3カ年にわたり中山間農業研究所で研究され、開発された技術である。慢性化しつつある土壌病害対策の画期的な技術として関心が高まっている。また、ナス栽培は、輪作が必要で、多くの農地の確保が必要となり、新規栽培者の障壁となっていたが、栽培圃場を固定できることから、夏秋ナス新規就農者の増加につながる技術としても期待されている。

そこで、農業経営課(農業革新支援センター)では、より現地に適合した技術確立と普及をめざし、今年度から「新技術導入広域推進事業」を活用し、県下3地域4カ所で農業普及課と連携して現地実証等に取り組んでいる。

6月14日には、第1回推進会議を中山間農業研究中津川支所で開催し、実証内容、調査方法や、草勢判断に基づく追肥時期等、実証ほ担当農家に対する指導事項の統一を図った。次回は、8月中旬に実証技術の成果を検討する。



【現地実証の状況】

## 戦略的な流通・販売

### 東濃農林 ■ たじみ農産物直売所出荷者協議会 「とれたて新鮮！ 駅北ファーム」がオープン

6月6日に多治見駅北口に新しい農産物直売所「とれたて新鮮！ 駅北ファーム」がオープンした。多治見市の地産地消の拠点を目指し、昨年度から関係者が検討・準備を重ねてきたものであり、出荷者協議会員も当初の倍の80名を超えた。

都市型直売所という希少な立地であり、ビルの1Fに構える店舗は約18坪と小さいが、多治見市産の農産物や加工品を中心に、管内の農産物や加工品が所狭しと並べられ、早速地元の買い物客らで賑わった。

オープン当初3日間の実績は、レジ通過者数738名、販売点数3,800点、売上高63万円とまずまずであった。

農業普及課では、出荷者協議会や関係機関とともに、今後一層の品揃えの充実や生産者育成の取り組みを実施する。



【ほぼ全ての商品が管内産品の店内】

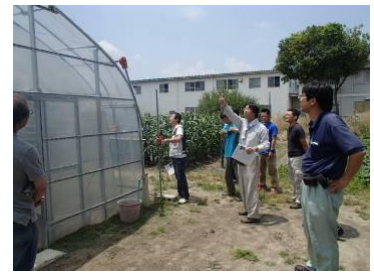
## 多様な担い手の育成・確保

### 岐阜農林 ■ アスパラガス、ナス、えだまめ 新規栽培者養成の専門塾（JAぎふ主催）を開催

#### ①アスパラ塾

6月7日にJAぎふが、羽島市で第2回アスパラ塾を開催し、新規導入者と既栽培者の計8名が参加した。農業普及課では、室内でハウス栽培の育苗から定植までの栽培管理技術について講義を行い、現地で収穫中のハウスを見学し、具体的な技術の習得に向け指導した。受講生からは、質問が多数出され、活発で熱心な研修会となった。

農業普及課では、今後も定期的に行われるアスパラ塾で、就農に必要な技術を取得できる講習会となるよう支援していく。



【アスパラ塾でハウス見学】

#### ②なす塾

5月20日と6月13日に本巣市なす振興会がなす塾を開催した。本年度から振興会の新規会員となった昨年からの塾生2名に、新規の塾生2名が加わり、計4名が参加した。

農業普及課では、6月13日の第2回なす塾で、実際に支柱を立て、番線・誘引ひもの張り方、摘葉などの栽培管理技術を指導した。次回は振興会の目揃会との同時開催で、選果・選別、箱詰め方法等を指導する。

#### ③えだまめ塾

5月30日にJAぎふが、岐阜市で第3回えだまめ塾を開催し、新規栽培希望者9名が出席した。

第1回から3回までのえだまめ塾で栽培の基礎を学習してきたが、今後は、現地実習に取り組み、即戦力としてえだまめ栽培が行える人材を育成する。

### 可茂農林 ■ 「人・農地プラン」モデル地域（川辺町） 意見交換会が開催される

6月10日に川辺町が、川辺町役場で「人・農地プラン意見交換会」を開催した。

当日は、国、県（農業経営課及び農林事務所）、農業会議、川辺町、農業委員会が出席し、「人・農地プラン」に係る情報提供が行われるとともに、モデル地域となった川辺町の概要や活動方針について検討された。

川辺町からは、「人・農地プラン」の中で、地域を担う農業者として8名の認定農業者を位置づけることや、将来的に土地利用型2法人に農地を集積する意向が示された。

また、農業普及課からは、2法人の今後の経営展開について代表者の意向を情報提供するとともに、経営上の課題解決に向けた支援を強化する旨説明を行った。

今後も関係機関と情報共有しつつ、同プランの実現に向けてモデル地域に対する重点的な支援を実施する。



【意見交換会の様子】

### 下呂農林 ■ 指導農業士会・青年農業士会 市長と語る会を開催

下呂市では、平成25年度新たに指導農業士1名、青年農業士6名が認定されたのを期に、指導農業士会・青年農業士会合同で「市長と語る会」を6月26日に開催した。

語る会では、農業普及課から新規認定者の紹介をした後、各農業士が自己紹介し、意見交換に入った。

意見交換では、農地保全や地域振興、後継者育成、地元農産物の活用促進等について、地域の農業担い手リーダーの立場から見た現状と問題、解決案が次々と発言された。また、市長からも前向きな発言があり、今後の市政に活かされる手応えが持てる会となった。



【市長と語る会の様子】

## 飛騨農林 ■ 新規就農者 新規就農者激励会を開催

6月13日に高山市で指導農業士会、青年農業士会、飛騨農林事務所主催で「新規就農者激励会」を開催した。

高山市・飛騨市・農業大学校・飛騨高山高校、JAひだ等関係機関からも多数の出席があり、総勢67名と盛大な激励会となった。

飛騨農林事務所管内の新規就農者数は、最近10年間の平均で22名/年で県全体の約4割を占めている。この1年間の新規就農者数は33名と過去最高で、当日はそのうち19名が出席した。

新規就農者は、「親にはまだかなわないが、父を超えることが目標」「お金を貯めてカッコイイ車に乗りたい」等、今後の夢を大いに語るとともに、新規就農者同士の情報交換の機会ともなった。



【夢を語る新規就農者】

## 魅力ある農村づくり

### 揖斐農林 ■ 集落営農 揖斐川町春日地区を活性化～第1回いびがわハイキング～

6月1日に、揖斐川町春日の天空の里上ヶ流（かみがれ）茶、(株)サンシャイン春日の主催による「第1回いびがわハイキング in 上ヶ流」が開催された。この行事は、天空の里上ヶ流茶を構成する春日出身の3姉妹が中心となり、上ヶ流地区の茶園を知ってもらうとともに、都市と農村が交流し、農業の担い手不足や農地の遊休化に歯止めをかけ、地域を活性化することを目的として開催された。

当日は、一般参加者220人、スタッフ80人の300人が参加し、春日中学校を発着するハイキングを楽しんだ。

目的地の上ヶ流茶園では、参加者が茶摘みの他、地元の人などが準備した野菜の直売や茶ができるまでの説明、飲食を楽しみ、普段は静かな山里がにぎやかな雰囲気にも包まれた。

参加者の反応は好評で、「自然豊かな山のでっぺんに茶園があることを知らなかった。また来たい。」という声が続出し、主催者及び関係者も継続開催に手応えを感じた。

農業普及課と農業振興課は、揖斐川町と連携して行事の開催を計画段階から指導・支援し、準備・運営にも携わった。この行事が実施された春日地区は、集落営農システム確立サポート事業、担い手への農地集積等推進事業の重点指導地区であり、今後は担い手の発掘や人・農地プランの作成など、地域農業の確立に向けた活動も強化していく。



【大勢の参加者が茶摘みを楽しんだ】